

2023年6月29日

学校法人三幸学園
札幌スポーツ&メディカル専門学校
校長 後藤 寿樹 殿

学校関係者評価委員会
委員長 八田 則之

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 八田 則之 (株式会社ルネサンス 第一営業部Aエリア エリアマネージャー)
- ② 谷 柚紀 (第6期卒業生)
- ③ 吉田 圭介 (株式会社シミズ・ビルライフケア)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月29日(会場 札幌スポーツ&メディカル専門学校 605教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 札幌スポーツ&メディカル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 斎藤 政臣

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 八田 則之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

【施策 1】

各学科の目標資格の合格率向上に向けて、資格取得の動機づけ、全国统一模試の活用、補講や教科担当との連携を深める。

【振り返り1】

●健康運動実践指導者

学校全体の合格率→**63.2%**(2021年度→66.2% 2020年度→69.7%)

●JATI 認定トレーニング指導者

学校全体の合格率→**64.4%**(2021年度→52.6% 2020年度→63.9%)

●アスレティックトレーナー

学校全体の合格率→**36.8%**(2021年度→50.0% 2020年度→40.0%)

・目標資格の合格率が伸び悩んでおり、オンライン授業における習熟度の低下が要因と考えられる。

【施策 2】

コロナ禍のオンライン授業から対面授業での学校生活が始まり、様々な理由による退学率の増加が見込まれるため、退学率軽減を目指す。そのために職業観の醸成を行うとともに担任力の向上を図る。

【振り返り 2】

担任力向上のために、職員会議内でケーススタディを実施し、様々な悩みを抱えた学生に対応できるように知識を増やした。職業観の醸成を行うために、校内で就職ガイダンスや校内セミナー数多く実施し、数多くの企業様に来校いただき、進級前に就職の意識を高めた

② 学校関係者評価委員会コメント

(八田委員:スポーツトレーナー科)

「健康運動指導者」の資格は自治体での運動指導活動において必須資格になるので、最終的に「健康運動指導士」を目指してほしい。卒業後の必要性を学生に伝える機会を増やしていくといいのではないかな。

(谷委員:スポーツインストラクター科)

学生時代は資格に対する意識が甘かったように感じる。就職後に資格の重要性を認識し、未取得の資格を卒業後に取得をした経緯もある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校理念や育成人材像は、入学時のスタートアッププログラムや学校生活ガイダンスで伝えているが、継続的に伝えることができていない。

② 今後の改善方策

入学時だけではなく、キャリア教育の授業を通じて、継続的に伝えていく。また保護者説明会は対面での実施としてスタートアッププログラムの様子を見ていただくことも考えている。

③ 特記事項

保護者については、オンデマンドにて学校理念等を伝える保護者説明会を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

(吉田委員:学校全体)

5年担当しているが、毎年元気で、立ち止まって挨拶をしてくれているので気持ちが良い。

(谷委員:スポーツトレーナー科)

学生時代、クラスで目標を決めて教室を掲示していた。その際に「挨拶をすること」を書かれていたことが印象的で覚えている。現在の職場でも挨拶を徹底して指導しているので、学校での学びが現場に結びついていると強く感じている。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

多様化するコンプライアンス・ハラスメントについて講師の人数も増え、周知まで時間を要している。

② 今後の改善方策

会議の参加率を上げ、全体会議などでコンプライアンス・ハラスメントについて毎回周知する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

（谷委員：学校全体）

全体会議に参加した際に「講師には関係ない」話が多いのではと感じてしまうことがあり、仕事を優先してしまう気持ちが強くなってしまっていた。授業などに関連して、すぐに実践できる内容が多いと講師の参加率が上がるのではと思う。

（八田委員：学校全体）

会議については義務ではなく、来てよかったと思えるような実践的なお土産を持って帰ってもらう工夫をすることによって参加率を上げていく方法もあるのではないかと。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

- ・SNS やオープンキャンパスでのイメージで入学してきた学生への職業観(ゴールイメージ)の醸成
- ・柔整科、鍼灸科において、付属治療院での実習が体系的に実施できていない。2022 年度まではコロナ禍において校内実習がメインになっていたが、職業観醸成のために治療院での実習をメインとしていく。
- ・資格取得の学習が必ずしも即戦力となる学習とイコールではない部分も多い。資格をしっかりと取得させる教育体制と即戦力を備えた人物育成のさらなる両立が必要である。

② 今後の改善方策

- ・株式会社ルネサンス様(業務提携先)への施設体験実習を続けていく。(入学時)実習の目的を学校で導入し、職業観の醸成と結びつけていく。
- ・付属院の稼働を開始し、授業後での実習を実施していく。また 1 年生の早いタイミングで、職業観の醸成ができる施術体験会を実施する。
- ・業界のニーズに合わせた教育課程・授業計画の見直しができるように、各エリア担当の情報収集力の強化とそのため仕組みの構築、現職で勤務をしている非常勤の声を教育に反映させることができる環境を作っていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(八田委員:スポーツインストラクター科・スポーツトレーナー科)

コロナ禍においては、挨拶が交わされない・人がいない 24 時間ジムが業績を上げている。そのため業界では挨拶がいらぬのではないのかという風潮が起きている。その流れがあるためしっかり挨拶することが企業の差別化になっている。

(谷委員:スポーツトレーナー科)

学生時代インターンシップ実習では、1年次は大学等でトレーナー実習を経験し、2年次はレバンガ北海道とスポーツクラブでの実習を経験した。スポーツクラブに実習に行った際に、今までは視野に入っていなかったスポーツクラブへの就職の意識が高まった。また当時、授業内でスタジオレッスンの授業がなかったが、実習に行くスタジオメニューの多さやマシンの充実さを感じることができた。スポーツトレーナー科は総合型のスポーツクラブの就職をする人は少なかったが、自分自身は実習が就職を決める岐路になった。

(八田委員:学校全体について)

コロナ禍もあり育成研修の機会が減ってしまい、近年の若手は育成研修の機会を望んでいるデータが出ているので、成長の場を提供すると教員のエンゲージメントがあがってくるのではないかと思う。自己成長感に対しては、研修を任意参加とすると手を挙げる人が多い傾向にある。

(吉田委員:学校全体について)

研修センターがあり、基本的な知識を伝えて現場に出ていく。自身が中途採用の際は、現場で覚えていく傾向だったが、最近は研修センターでの研修がメインになっている。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

コロナ禍で対面コミュニケーションが乏しい学生が、クラスでの人間関係を構築できず退学に至るケースが増えている傾向にある

② 今後の改善方策

HR 等を活用し、チームビルディングを取り入れクラスの関係性を構築するとともに、スクールカウンセリングの活用などメンタル面のケアも同時に実施していく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

(谷委員:スポーツトレーナー科)

在学中授業の欠席が続き「孤立」し単位が足りなくなり、退学に至るケースもあった。

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

カウンセリングルームを姉妹校と連携して開催しているが、実施教室が姉妹校の教室のため、認知度も低く利用数が少ない。

② 今後の改善方策

次年度以降、固定曜日にて自校開催日を設定する。HR での告知回数を増やすとともに、担任との個人面談の際にも気軽に利用するように進めていく。また担任とカウンセラーの先生の連携方法などシステム構築も合わせて実施する。

③ 特記事項

長期欠席者や国家試験に関わる模試の点数が伸び悩んでいる場合など、学校生活に改善が必要な場合に適時保護者へ連絡をしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

(八田委員:学校全体)

部活動指導員について、ルネサンスでは水泳の指導を委託いただくケースが増えてきている。学校のプールを廃止する傾向がある。今後、委託が伸びていくと見込んでいる。

(谷委員:学校全体)

卒業後に健康運動指導者の検定が必要となり、先輩に教えていただき取得した。卒業生の支援体制として母校で卒業後に学び直しができるのであればいいのではないかと。特に資格取得を望んだ場合、資格対策ができるとういのはと思う。

(6)教育環境

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

コロナ禍のため海外研修は見送る。2023年度は実施予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

- ③ 学校関係者評価委員会コメント
特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018 年度～2022 年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023 年度～2027 年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

- ・全国のリゾート&スポーツ専門学校で、特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワークと提携しており、1年次は、「スポーツボランティア研修会」を、2年次は、「スポーツボランティアリーダー研修会」を任意で受講できる仕組みとなっている。
- ・産学連携しているチームが放課後に当校のトレーニングルームを利用しており、トレーナーの指導の下、主にアスレティックトレーナー科の生徒が実習をしている。
- ・AT科がコンディショニングセンターを開設し、姉妹校の教員に対して運動指導を実施している。また2022年度は、講師の先生が主催しているアルペンスキー少年団にも3年生を中心にトレーニング指導を実施し、地域貢献の一端を担っている。
- ・地域のスポーツイベントの再開に伴い、ボランティア活動も活発になってきている。なお北海道マラソンにおいては、1年生61名・2年生30名、合計91名が給水ボランティアを中心に参加していた。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

【総括】

徐々にコロナ禍前に戻りつつある中で、挨拶など基本的なことを大切に現場で活躍できる人間性を育んでいきたい。保護者との連携については、行事等に参加できる機会を増やしていき、学校の教育理念の理解を深めてもらうことも重要になっている。

資格取得については、在籍中のみならず将来像を見据えて考えられるようになることが良いのではないかと考える。また卒業後の学び直しという観点から卒業後も支援ができるように卒業生とのネットワーク構築を担任メンバーを中心に講師陣とのつながりも強化していきたいと考える。